

全道一斉トイレデー（利尻山）の実施結果について

山のトイレを考える会会員 佐藤雅彦

日頃、利尻山の環境保全などについてご尽力いただき、まことにありがとうございます。9月11日の「山のトイレデー2004」（山のトイレを考える会利尻グループ・利尻礼文サロベツパークボランティアの会主催）に島内からも有志が参加し、以下のような清掃登山などを行いましたので報告いたします。なにかのご参考にしていただければ幸いです。

日 時：2004年9月11日 6:00-18:00

天 気：晴れ（杓形側はほぼ無風、鴛泊コースでは風も徐々に強まった）

参加者：8名（利尻町3名、利尻富士町3名、礼文町1名、稚内市1名；当日都合により急遽不参加となった方は、利尻町1名、利尻富士町1名、稚内市1名だった）

内 容：早朝のパンフ配付や呼びかけは今年はとりやめとし、清掃登山と登山途中で興味のある方々に「マナーガイド（山のトイレを考える会作成）」と「絵はがき（パークボランティアの会）」を配付した。清掃登山は今年度から体力に応じて自分でできる範囲で参加していただく方針にしたため、杓形コース引き返しグループ2名、鴛泊避難小屋引き返しグループ2名、杓形～鴛泊縦走グループ4名での活動となった。自分のペースや体力、都合にあわせた活動ができたことは、本来のボランティア活動により近く、気軽に参加できるトイレデーとして長く継続していくためにも必要なことと考えられる。また、ルートを分けたことは、清掃活動も分担され、一番きつい杓形～鴛泊縦走グループは下山中の活動がたいへん楽であった。

所 見：【トイレブース】杓形コース6合目付近および鴛泊コース6合目上のトイレブース（写真1）の扉が、ブース全体のゆがみや破損から完全に閉まらなくなっていた。杓形のブースに関してはロープでしばりなんとか補修ができた。トイレブース内については、便座の汚れや、携帯トイレの放置などは全くなかった。ただし、ゲル状の消臭剤が倒れて汚れており、一部、回収を行った。

【ティッシュなどのトイレ痕】杓形コースでは、避難小屋1、礼文岩3で、それ以外は特にトイレの痕は気にならなかった。頂上のロープ裏もアンモニア臭もなく、用足しに降りる者も最近ではいなくなったようである。去年は頂上直前の岩場には複数のトイレ跡があり、岩場の裂け目にティッシュとともに突っ込まれてあったが、今年もティッシュ痕が2つあった（写真2）。9合目の東側の谷もよくトイレ場となる場所だが、今年は携帯トイレ1の投げ捨てのみであった。しかし、まだ携帯トイレの投げ捨てがあるとは、今後もマナー向上を地道に呼びかける必要がある。9合目から山小屋までにティッシュ痕は7あった。避難小屋の周辺はもともとゴミ、トイレ痕が多い場所であり、今年もその傾向は変わらない。ティッシュ痕3、携帯トイレ1。しかし、それでも量は年々減つ

ているように感じた。避難小屋から長官山まではティッシュ痕3。7合目はちょっと奥に行く道にティッシュ痕7。トイレブースが撤去された5合目の場所の周辺は意外ときれいであったが、その反対側の谷にティッシュ痕2。4合目は5つのティッシュ痕が見つかった。なお、駕泊避難小屋引き返しグループによると、ティッシュ痕は約50、使用済み携帯トイレの投げ捨ては2だった。

【携帯トイレ】携帯トイレを利用している人の姿は当日は見ることはなかったが、登山客との会話から「本州では当たり前になってきている」というような声も聞こえたりと、全国的に普及は進んでいるように思えた。投げ捨てられた携帯トイレの数としては、去年は3だったので、ほぼ同じ状況であった。

【ゴミ】ゴミに関しては昨年同様、お菓子の包み紙などの小さなゴミが多いことや、帽子やタオルなどの風で飛ばされた衣類、そして転がり落ちたペットボトルなどが多く、故意に捨てていっているような悪質なマナー違反は少なくなっているように感じた。しかし、駕泊の旧避難小屋の埋めたゴミが目立つため、少しずつでも担ぎおろしをやっていかななくてはならない時期にきているかもしれない。縦走グループでは45リットルのゴミ袋で燃えないゴミが1袋（空き缶、ペットボトル、瓶など）、燃えるゴミ+トイレゴミが2袋という結果だった。これは去年の合計4に比べれば少ないように感じられたが、杓形グループが1袋分、そして駕泊グループ（写真3）が少なくとも1袋分は担ぎ降ろしているの、合計5つとほぼ例年並の量といえる。

【登山道】杓形コースでは、親不知子不知のルートは春先のような足場が悪い印象はなくなり、ほぼ安定しているように思えた。しかし、ガレ場から登山ルートにもどる場所が水の流れにより深くえぐられ、非常に渡りづらくなっている部分があった。親不知子不知の後の一部道が落ちていた去年も指摘した部分は、水の通りが更に広く、深く礫をえぐり、たいへん危険な場所となっていた（写真4）。「親知らず」を抜かせば、多分、利尻山の中でもっとも事故が起りやすいところかもしれない。この水の通り道を別な方向（親知らず側）に逃がさない限り、この部分の道はいずれ使えなくなるはずだろう。合流点直前の杓形コースは、利尻町による礫を袋詰めして階段状にならべという補修が行われたばかりで、その結果、大変登りやすくなった（写真5）。登りやすくなっただけでなく、これまでのように礫を下に落とすことなく、登山道の侵食に対してもたいへん有効な素晴らしい方法と思えた。しかし、合流点に置かれた古い土嚢はすでに袋が破れており、どれだけメンテナンスをできるかが、この方法の正否を左右するものといえよう。参加者の多くも、今後のこの事業の進展に大きな期待を寄せているようだった。駕泊ルートでは合流点以下、危険な場所、変化が大きな場所は特になかったように思えるが、合流点直下の部分では貴重な高山植物もあり、登山道脇の杓形側の崩壊などにより、そんな植物たちも姿を消しつつあった。これだけ大きな

崩壊の状態では、崩れるのを止める方法はなく、なんとも残念に思っている。

【マナー】ブースの使用状況や携帯トイレの投げ捨て状況から、徐々に利尻山でのトイレ問題は昨年同様改善されてきたように感じられる。しかし、これらの問題はなにかをやったからといって一気に好転することはないだろう。粘り強く、多くの登山者に山が抱える問題に耳を傾けてもらったり、マナー向上の普及活動を地道に継続していくことが、登山者全体の気持ちをいつか変化させる大きな運動へとじわじわ浸透するものではないかと考えている。なお、今回は早朝における呼びかけは中止し、興味のある登山者に、「山のトイレを考える会」で作成したマナーガイドとパークボランティアで作成した利尻山のポストカードを配付した。

【トイレデー】全道一斉のこの事業も今年で4回目となり、今年は6/27にこれまで同様の全道各地でのトイレデーが開催された。これは山開きにあわせたものであり、利尻では清掃登山の時期ではないため、会のノボリを両登山口にたてるだけの活動にとどまった。秋のトイレデーとしては「山のトイレを考える会」として9/4に美瑛富士の清掃登山が実施され、利尻では年度当初の予定にあった9/11にこれまで通りの「トイレデー」を実施することとし、「山のトイレを考える会利尻グループ」および「利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会」の主催事業とした。「山のトイレを考える会」が今後秋のトイレデーをどう位置づけるかはわからないが、利尻島では9月のこの時期の清掃登山を様々な人が参加できる活動として今後も継続していきたいと考えている。今年の活動の特徴は、体力や都合などの参加者の事情にあわせて、杓形途中引き返しグループ、杓形・駕泊縦走グループ、駕泊途中引き返しグループに班を分けたことである。当初は活動としてのまとまりがなくなることも懸念されたが、1) 誰もが自分にあった活動を選ぶことができ、本来のボランティア精神に近い活動ができた、2) 参加者の体力的な差が解消された、3) 結果としてルートが分かれたため、清掃作業の分担が行われ、作業が楽になった、などのよい成果が得られた。今後は参加者の安全性にも気を使いながら、このような誰もが参加できる選択肢をもった市民ベースのボランティア活動を「トイレデー」を利用しながら根づかせていきたいと考える。

【別紙資料】今回は2つのルートにわかれて活動を行った。本報告は参加者の感想などからなるべく全体の報告としてまとめるよう努力したつもりであるが、基本的に杓形～駕泊縦走グループ（写真6）の視点にたったものであり、駕泊グループ（写真7）からは別紙のような報告をいただくことができた。本報告でもらした点もいくつかあるので、別紙の通りそのまま添付することとした。作成者である大野陽子さんに紙面を借りてお礼申し上げたい。



2004.9.11 清掃登山報告レポート

鴛泊コース班	
参加者	梅田京子
	大野陽子 (PV)
出発	鴛泊登山口 6:40
下山	同上 17:00
活動時間	10時間20分
使用済みちり紙	約50個
使用済み携帯トイレ	2個

- 6:40 登山口よりゴミを拾いながら登山を開始する。甘露泉付近にも最近のゴミや古い布などのゴミが落ちている。人が立ち止まる場所には決まっていくらかのゴミがあると感じる。
- 4合目 休む場所周辺にはゴミが散乱している。食べた後のゴミが多い。梅田さんと二人でゴミ持ち帰りの立て札が必要かも、と話し合う。年数の経っているビニール袋や布製のゴミを土から拾う。梅田さんは、「例年このコースは帰路になる事から夕暮れでゴミが見えにくいけど、今年はゴミが良く見える。登りという目線の違いもあるのかも。今年で古いゴミは無くなるね。」と教えてくれた。
- 5合目手前 踏み分け道があるので辿って行く。使用済みチリ紙散乱している。7個拾う。
- 5合目ブース後 使用済みチリ紙30個ほど
- 9:30 6合目着。休み所にはガムの紙、飴の子袋など多い。
- 6合目トイレブース 中は割ときれいだった。戸がきちんと閉まらない。ブースの周りにチリ紙が落ちている。これは、トイレを持参しなかった人の使用後かな？その場合でもチリ紙を持ち帰るマナーが欲しい。
- 7合目 10:00 割れたビンや古いビニール袋など半分土に埋まっているのを掘り起こしながら進む。踏みつけ後を辿るとやはり数個のチリ紙の塊がある。用意したパンフを配布する。「今日の船に乗るので手伝えなくて申し訳ない」と、言ってくれる人。5合目に私達がまとめて来たゴミを〈マナーが悪いと思ったそう〉持ち帰るつもりだったと言ってくれる人などあり、嬉しかった。
- 8合目長官山 パークボランティアの腕章を見た人から、ここは第二見晴し台かと聞かれる。地図〈昭文社〉にはあるが、看板が無くて探していたとの事。長官山や、8合目の看板も見当たらず、登山者にとっては地図のみ頼りなので、何とか

して欲しい。この事を環境省に伝えて欲しいと強い希望だった。《別のグループにも8合目はどこかと聞かれた。》帰路は目線が違うので登りのときに見落とししたゴミを拾いながらの下山となる。

トイレブース　　ここで私は携帯トイレの初体験を試みる事にした。普通のトイレと同じような感じで、違和感なく使用できて驚いた。これは絶対にお勧め品だと確信する。

5合目　　集めておいたゴミをまとめて記念撮影。その後リュックにまとめて背負う。ここを少し下った所の林の中で、便入り携帯トイレを発見する。雨を吸ってずっしりと重い背負って持ち帰る。

甘露泉　　梅田さんは東屋の周りにもゴミがあるはずと書きながら丁寧に拾い集める。さすが清掃登山の先輩だ。

17:00　　登山口到着。無事終了する。

初めての清掃登山でした。下ばかり見て歩いたせいか、久々の登山のせいか、8合目付近でギブアップ。後はゆっくりパンフを配りながらの活動となり、体力の無さを痛感しました。来年までに鍛えなおして頂上を目指すことを心に誓いました。山が清掃登山を喜んで、最高の天気をプレゼントしてくれたような気がして、利尻山も良いところがあるんじゃないかと思いました。

梅田さんより、昨年より古いごみが多いのは帰路目線と違って登山目線の方がゆっくりとゴミを探ることが出来た事や、年々少なくなったゴミの話などを聞きました。そして行動すること、啓蒙する事の大切さを痛感すると同時に、山がきれいならゴミを置いてゆく人もいなくなるのだとの思いを新たにしました。

最後にそれぞれのペースに合わせ2チームに分かれたことは良かったと思いました。